

1 題材名 静物画を描く～よく見つめて～

2 題材の目標

- 心ひかれるモチーフを選び、じっくりと向き合い、自分の感じた世界として表現しようとする。(関心・意欲・態度)
- モチーフを目の高さや方向をかえて観察し、安定かつ動きのある構図を考えることができる。(発想や構想の能力)
- アクリル絵の具の特性を知り、混色や重色、筆づかいによって、質感・量感などを表現することができる。(創造的な技能)
- 作品を深く味わい、自分なりの見方や感じ方で、表現の工夫やよさを感じ取ることができる。(鑑賞の能力)

3 題材について

静物写生は、描く対象を時間をかけてじっくり観察しながら描けるので、物の形の基本を見つけたり、それらを画面にまとめたりする力を付けるのによい題材である。形や色で対象を正しくうつすだけではなく、力強さ、さわやかさ、あたたかさ、心地よさなど自分の感じた世界の表現ととらえる心と見方を身につけることが大切である。優れた作品は、主題を表現するための創造的な画面づくりがされており、その物語性が感じられる。画家が伝えたかった世界が見る側の人に確実に受け止められ、物語性や構成・構図、配色などのよさを通して共感の場が生まれる。ここでは特に、静物画の重要な要素である構図についてしっかりと学習を進めることをねらいとしている。

まず、身近にあり自分の個性を表現するモチーフ(描きたい対象)に、一つ一つが比較的まとまった形をしている果物、器物などを組み合わせ自分のイメージにあった構図を考えさせる。さらに目の高さや方向をかえて観察し、かく範囲と位置を決めたりして安定かつ動きのある構図を考えさせたい。また、アクリル絵の具の透明水彩的な表現ができる特徴を活かし、混色や重色、筆づかいによって質感、量感、立体感などを表現させたい。モチーフ選択から構図、そして彩色まで自分のこだわりを追求し、納得のいく作品を目指して創り上げる過程を経て、作品の完成時には自らの絵画に題名「○○のある静物」を決定させたい。

構図練習の場面や、彩色の段階で発表し、学び合う場を設定することで、それぞれの構図にこめた思いや描こうとする世界を味わうとともに、お互いの表現や個性のよさを認め合うなど、他者への共感と理解も広げることにもねらいたい。

表1 生徒の実態(1年1組 生徒36名調査)

静物画への関心		静物画の構図についての満足度	
・とてもある	24名	・とても満足	14名
・ややある	12名	・まあまあ満足	18名
・あまりない	0名	・やや不満	3名
・まったくない	0名	・かなり不満	0名
過去の絵画制作でのつまづいた経験(複数回答)		制作を進める過程でつまづいたときの解決方法(複数回答)	
・構図	3名	・先生からのアドバイス	22名
・下絵	16名	・友達との情報交換	29名
・彩色	28名	・資料など自分で調べる	12名
・時間不足	7名	・その他	2名

本学級の生徒は、美術への関心が高く、授業への取り組みも意欲的である。(表1)また、1学期のスケッチの学習において作品の完成度も高かった。しかし、過去の絵画制作でのつまづきについて、7割の生徒が「彩色(絵の具の塗り方)」が不安と感じている。そのためアクリル絵の具の特性を知り、表現意図に合う方法を選択し、それを基にして新たな表現方法を試行錯誤できるようにワークシートの活用を図り、個に応じた具体的なアドバイスで支援していきたい。さらに、制作を進める過程でつまづいたときの解決方法として8割の生徒が、「友達との情報交換による解決」と答えている。このことから、友達同士での学び合いの場を設定することにより、自分の感じ方や見方を大切にするとともに、自分と異なる見方や感じ方を学ぶことを通して、制作に生かす鑑賞活動を積極的にする態度が養われていくと考える。

4 指導と評価の計画(10時間扱い)

次	時間	主な学習活動	授業における工夫改善点	評価計画				評価の方法
				関	発	技	鑑	
1	1	・静物画について学習する。	・ワークシートのモチーフを切り取り、各自が考えた構図を発表し合うなど、学び合う場を設定する。	◎		○	◎	観察・発表 ワークシート
2	1	・モチーフを選び、構図を考える。	・自分の個性を表現するモチーフと、果物、器物などを組み合わせ自分のイメージにあった構図を考えさせる。		◎	○		作業観察 ワークシート
3	2	・下絵を描く。 ・鉛筆によるデッサンをする。	・ものの見方や感じ方を深めるために、しっかりと対象を観察する時間を確保する。 ・既習の鉛筆によるデッサンを想起させる。	◎		◎		観察 下絵作品
4	5 (本時はその2時間)	・アクリル絵の具の特性について学習する。 ・下絵に基づき、本制作をすすめる。 ・彩色をして仕上げる。	・アクリル絵の具の特性を知り、混色や重色、筆づかいによって、違いを表現することができるよう彩色の試行的な体験を取り入れる。			◎	◎	観察・発表 試行作品
			・制作の見直しをもって取り組めるよう一人ひとりに計画の見直しを図る。	○	◎			制作カード
			・色彩計画を発表し合い、相互にアドバイスし合う場を設定する。			○	◎	○
5	1	・互評会をする。	・展示方法や鑑賞の仕方を工夫し、作品の見方を示すなどワークシートを工夫する。	○			◎	発表 ワークシート

5 本時の学習

(1) 目標

- ・アクリル絵の具のよさや表現方法の可能性を感じ取り、混色や重色、筆づかいなどの塗り方を工夫し表現することができる。

(2) 準備・資料

教科書、美術資料、スケッチブック、制作カード、ワークシート、静物画の参考作品

(3) 展開

段階	学習内容・活動	指導上の留意点 (◎: 評価)
導入 10分	<p>1 本時の学習課題をつかむ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> アクリル絵の具の特性について知り、彩色方法を試行してみよう。 </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・前時までの制作進度を制作カードとスケッチブックで確認する。 ・静物画の参考作品を提示することで本時の学習課題を確認するとともに活動への関心を喚起する。
展開 30分	<p>2 アクリル絵の具により着彩されたりんごの表現の違いに、気づいたことや感じ取ったことを発表し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・水の量 ・筆のタッチ ・影や光の表現 など <p>3 りんごのワークシートで、実際に彩色方法を試行してみる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・透明水彩風 ・不透明水彩風 ・油絵風 <p>4 試行作品を相互鑑賞し、情報交換をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・難しかった点 ・工夫した点 	<ul style="list-style-type: none"> ・アクリル絵の具により着彩された表現の違うりんごの作品を用意し、表現方法の可能性を知ることにより、制作への意欲づけが図れるように配慮する。 ・絵の具と水の量の割合や筆のタッチなど具体的な視点を示すなど発問を工夫し、発表できるよう支援する。 ・短時間でもアクリル絵の具の試行的な体験を取り入れることにより、その特性を知り表現意図に合う方法を選択するための活動を保障する。 ・机間指導を行い、多少手間取っている生徒には、水の量や筆のタッチなど確認しながら彩色するよう具体的に助言する。 <p>◎アクリル絵の具のよさや表現方法の可能性を感じ取り、混色や重色、筆づかいなどの塗り方を工夫し表現することができる。 (観察, 試行作品)</p> <p><努力を要する生徒への手だて></p> <ul style="list-style-type: none"> ・彩色の試行が不十分で、彩色することに不安な生徒へは、混色や重色、筆づかいなど周りの友達から学び自分の作品作りに生かすよう言葉かけをする。 <ul style="list-style-type: none"> ・試行作品を発表し合い、個々の生徒の作品からよい点など感じ取るなど、ともに学び合う場を設定する。 ・鑑賞の視点を示し、周りの意見を聞き、今後の自分の作品作りに生かすように指導する。
終末 5分	<p>5 本時の学習のまとめをし、次時の活動内容を確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・制作カードに記入 	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の課題について適切に自己評価させるとともに、個々の生徒について把握し、次時の指導に生かすようする。